

最終成果報告

同志社大学プロジェクト科目

『小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究』

(春秋連結科目)

「小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究」

- 小学生「向けの」ではなく「ための」
- 汎用性のあるプログラム開発
→ Web上での公開
- プログラムのコンセプト
→ 「将来の愛好家の卵を育てる」

■ なぜ「能」か

- ・「能楽」＝能＋狂言

- ・「感性」の芸術

→「能はわかりにくい」という先入観

■ なぜ「小学3年生」か

伝統芸能に対する抵抗感・先入観がない

⇒対象を絞り、能を身近に感じるプログラムに

「能プロ」の位置づけ

【能プロ】

プロデューサー

コーディネーター



→それぞれをよく知ることで、
柔軟なプログラム作りが可能

■実施したワークショップ

◇第1回WS・・・「ハロー！能楽～能を体験しよう」

- ・能との出会い
- ・頭で、体で感じる能
- ・アウトプット

◇第2回WS・・・「つながる ふくらむ能の世界
～見つけよう 能の魅力」

- ・能楽師との交流
- ・「観察」

⇒2度のワークショップを行うことで、
能との距離を段階的に縮めることができる

